

高田のたから

「夢の実現に向けて、主体的に学び続ける子供の育成」 ～人・物・時を大切に～

八代市立高田小学校
校長 村本 恭子

2学期始業式（8月28日） ～子供たちへのメッセージ～

2学期の始業式を迎え、元気な姿を見ることができて、心からほっとしています。

今年の夏休みは、いつもとは全く違う、とても大変な夏休みになってしまいました。

しかし、始業式の朝、学校にしっかりと足を運んでくれたこと、今日まで一生懸命に過ごしてきたことに、心から「ありがとう」を伝えます。

地震が起きてから今日まで、毎日不安な日々を過ごしてきたことと思います。

「また大きな地震が来たらどうしよう」「これからどうなるんだろう」と、今も心配な気持ちでいっぱいの人がいるかもしれません。

学校は、皆さんの命と安全を、何よりも一番に守る場所です。

先生たちは夏休みの間、皆さんが安心して過ごせるように、教室や廊下に危ないところがないか、何度も何度も点検をして、準備をしてきました。

もし、授業中や休み時間にまた地震が起きても、先生たちが絶対に皆さんを守ります。だから、安心して、この学校で過ごしてください。

今、みんなの心の中に、こんな気持ちはありませんか？

- 小さな音にびっくりしてしまう・暗いところに行くのが怖い・一人になると不安になる・なんだかイライラしたり、悲しくなったりする

それは、みんなの心が弱いからではありません。

大きな地震を経験したあとには、心や体がびっくりして、そういう「ドキドキ」が起きるのは、実はとても自然で、当たり前のことなのです。何もおかしいことではありません。

だから、無理に「元気を出そう」とか、「我慢しなきゃ」と思わなくていいのです。

悲しいときは涙を流していいし、怖いときは「怖い」と言ってい。

自分の心から出てくる気持ちを、どうか我慢して閉じ込めないでください。

さて、地震のあと、学校の中は、棚から物が落ちたり、色々なものが壊れて散らばったりして、とてもそのままでは2学期を始められない状態でした。先生たちも片付けをしていましたが、あまりの大変さに途方にくれていました。

そんなとき、とても心温まる、嬉しい出来事がありました。

それはこの学校を卒業していった、中学生の先輩たちが、「大好きな高田小のために、自分たちにできることはないか」と、ボランティアとして学校に駆けつけてくれたのです。

中学生の先輩たち自身も、地震で怖かったはず。自分のお家も片付けなどで大変だったはず。それなのに、みんなのために、汗をたくさん流しながら、重いものを運んだり、散らばった壊れたものを一つ一つ丁寧に、綺麗に片付けたりしてくれました。

みんなが、こうして安全に、綺麗な教室で2学期を迎えられているのは、先生たちの力だけではありません。みんなのことを大切に想って、一生懸命に動いてくれた、優しい卒業生の先輩たちがいたのです。

小学生のみんなは、今はまだ助けてもらうことの方が多いかもしれません。でも、みんながもう少し大きくなったとき、この先輩たちのように「困っている誰かのために、進んで動けるカッコいい人」になってくれたら、とっても嬉しいです。

でも実は小学生でも夏休みの間避難所へ出かけ、お手伝いをしてくれていた人がいたそうです。避難所の受付をしたり、お年寄りに声をかけたりしていたそうです。地域の方から感謝の電話をいただきました。

誰かのために頑張った人が高田小の子供たちの中にいたことがとても嬉しかったです。

最後に2学期、みんなにつけてほしい力があります。

それは、「自分の命を自分で守る力」です。

地震はいつ、どこで起きるか分かりません。そして、地震のあとには「津波」が来ることもあります。

そこで、この2学期に、学校では「地震と津波を想定した避難訓練」を行います。

訓練は、ただの練習ではありません。「もしも」のときに、自分がどちらに逃げたらよいのか、どうやって命を守るのかを覚えるための、とても大切な時間です。

みんなが自分の命を守るために、真剣に、一生懸命に訓練に参加してください。

これから始まる2学期。勉強や運動など、最初から完璧にやろうとしなくて大丈夫です。

まずは、毎日学校に来て、お友達の顔を見て、少しおしゃべりをする。それだけで100点満点です。

心が苦しくなったとき、体調が悪いなと思ったときは、いつでも先生たちを頼ってください。

焦らず、ゆっくり、一步一步進んでいきましょう。